

ナルニア国物語

魔術師のおい

29

C・S・ルイス

土屋京子・訳

玉樹庵・画

(光文社古典新訳文庫刊)

第 29 話 この物語は終わり、
ほかのすべての物語が始まる (前編)











子ども
たちよ

ここを
見なさい





あなたがたが
この前ここに
来たときには

そして

その水たまりに
飛びこんだら

いま

水たまりは
ない

死にかけた太陽に
照らされた
チャーンの廃墟に
至った

あのくぼみは
水たまりだった

あの世界は
終わったのだ

存在すら
しなかったかの
ように

アダムと
イヴの
子孫は

これを警告と
受け取るがよい





いまの
ところは

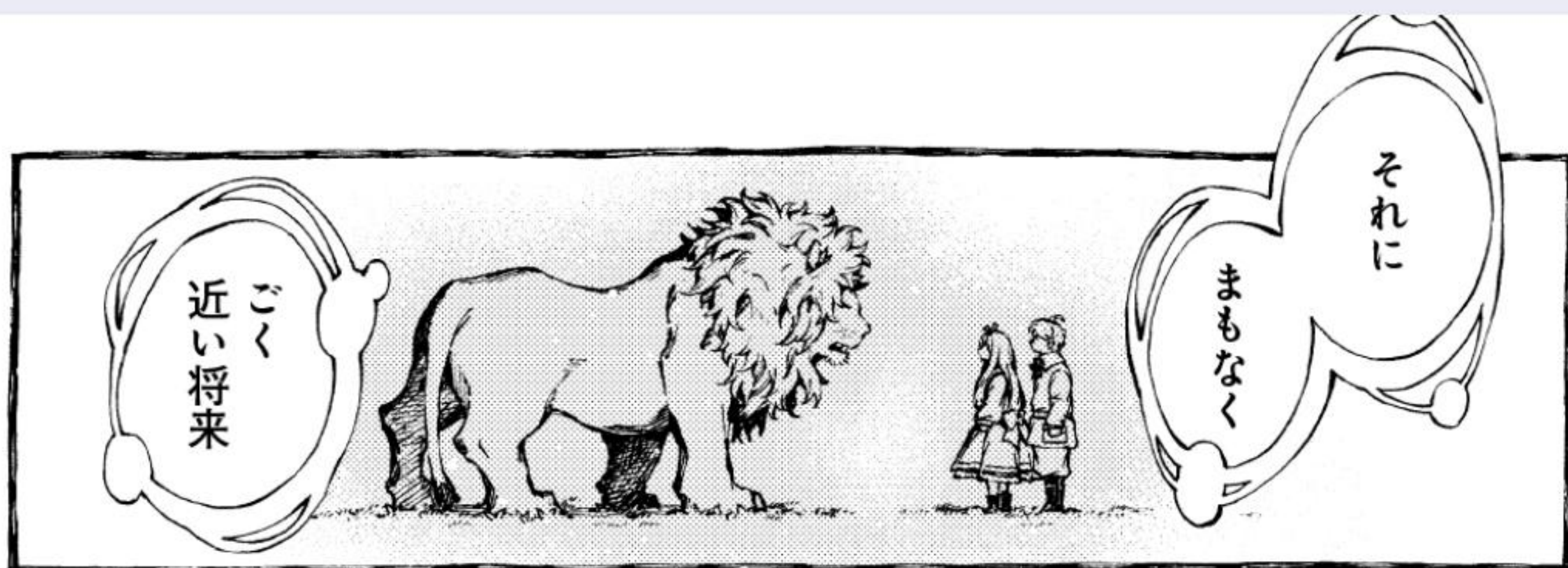
まだ

あなたがたの種族の
よこしまな心を持つ者が
〈滅びの言葉〉と同様の
邪悪な秘密を見出し

しかし

しだいに
似てきている

それを用いて
生きとし生けるものを
皆殺しにする可能性が
ないとはいいきれぬ





そして

命令の
ほうだが



用心
するがよい

あなたがたの
世界は



これが
警告だ



できるだけ
早く

あなたがたの
伯父から
魔法の指輪を
取り上げ

二度と誰も
使うことがないよう
土に埋めなさい







——とほうもない
優しさと力強さで
満たされていく…

なんて幸福で
賢明で善良な
気もちなんだろう！

自分は
これまでほんとうに
生きていたのだろうか

目ざめて
いたのだろうか



この記憶は
一生頭の中で
生きつづけ

悲しいことや
怖いことや
腹のたつことが
あっても

この金色の至福に
満たされた記憶が

いつもすぐそばに
あるのだという感覚が
よみがえり

何もかも
きつと
だいじょうぶと
思えるのだ――









玄関が
開いてる！

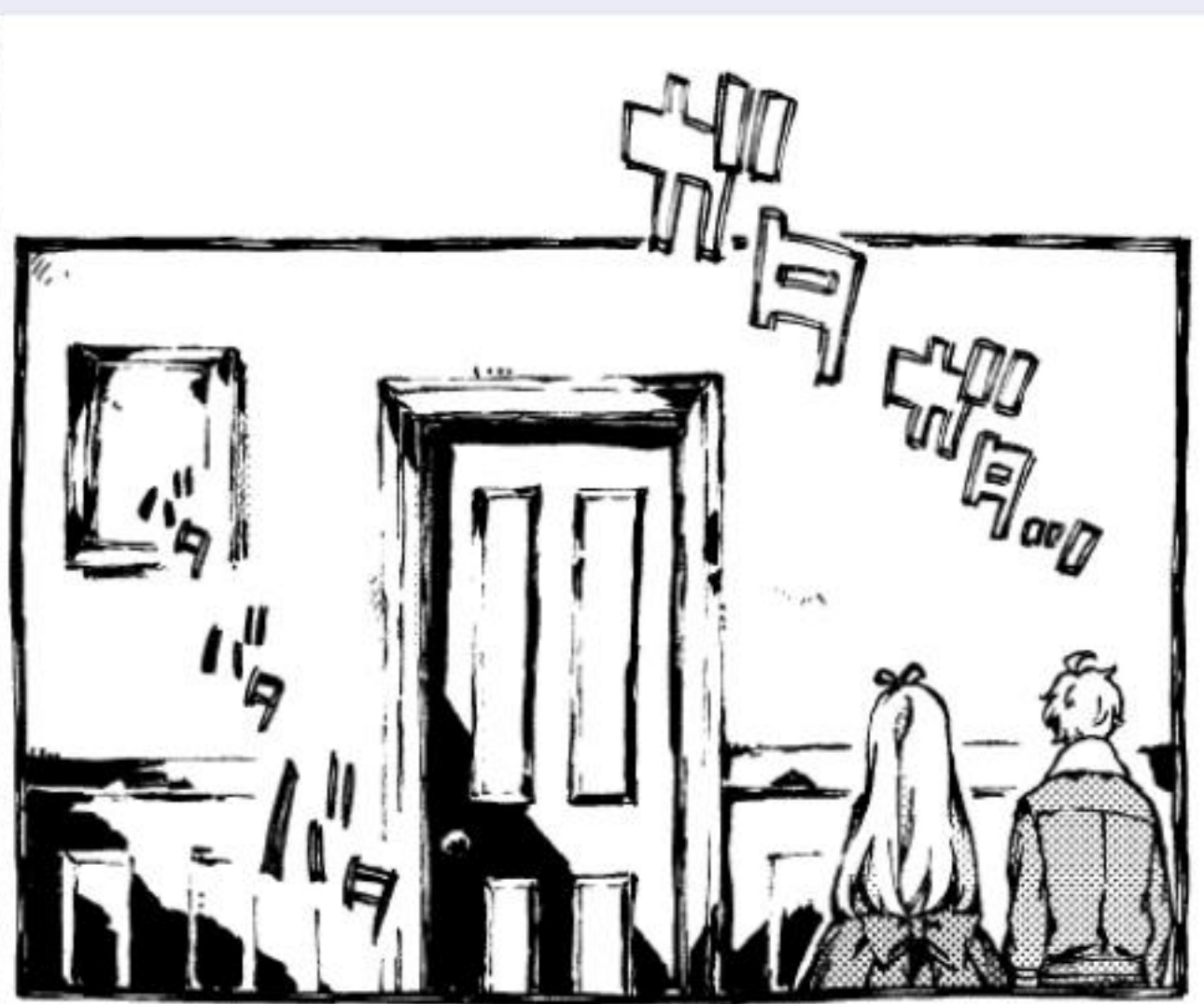




屋根裏部屋へ
行つて

残っている
魔法の指輪を
隠すつもり
なんじゃ…！





残りの指輪

たのめる？

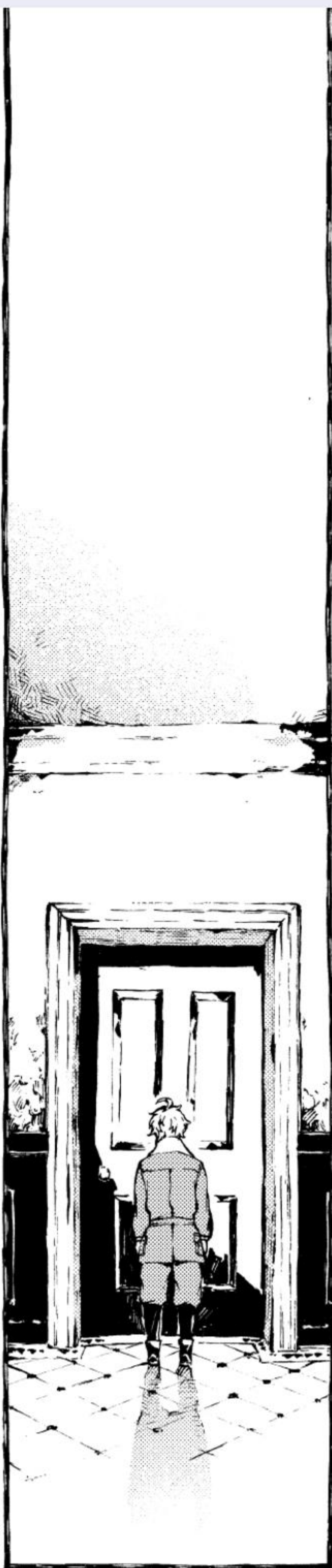
ぼく

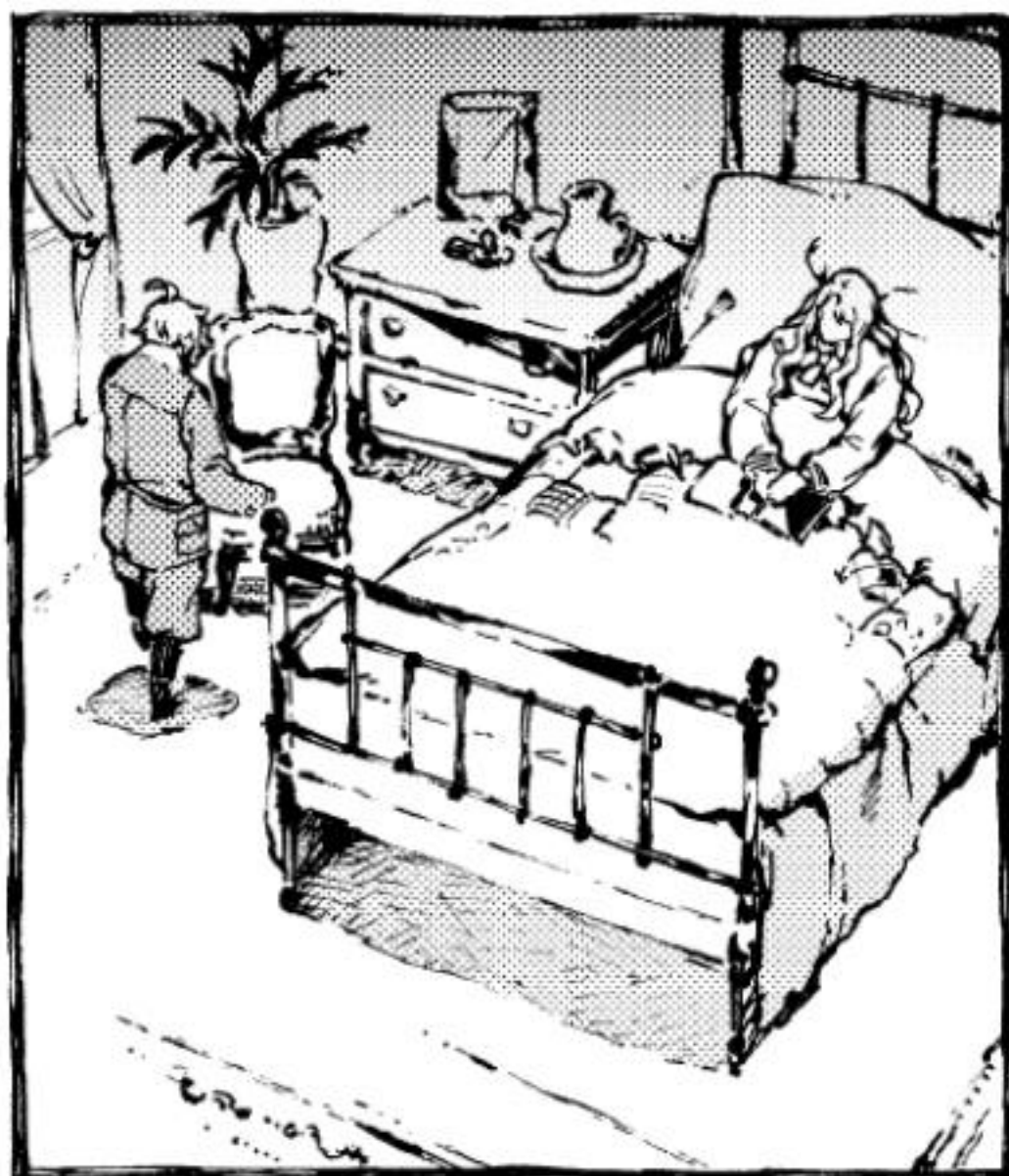
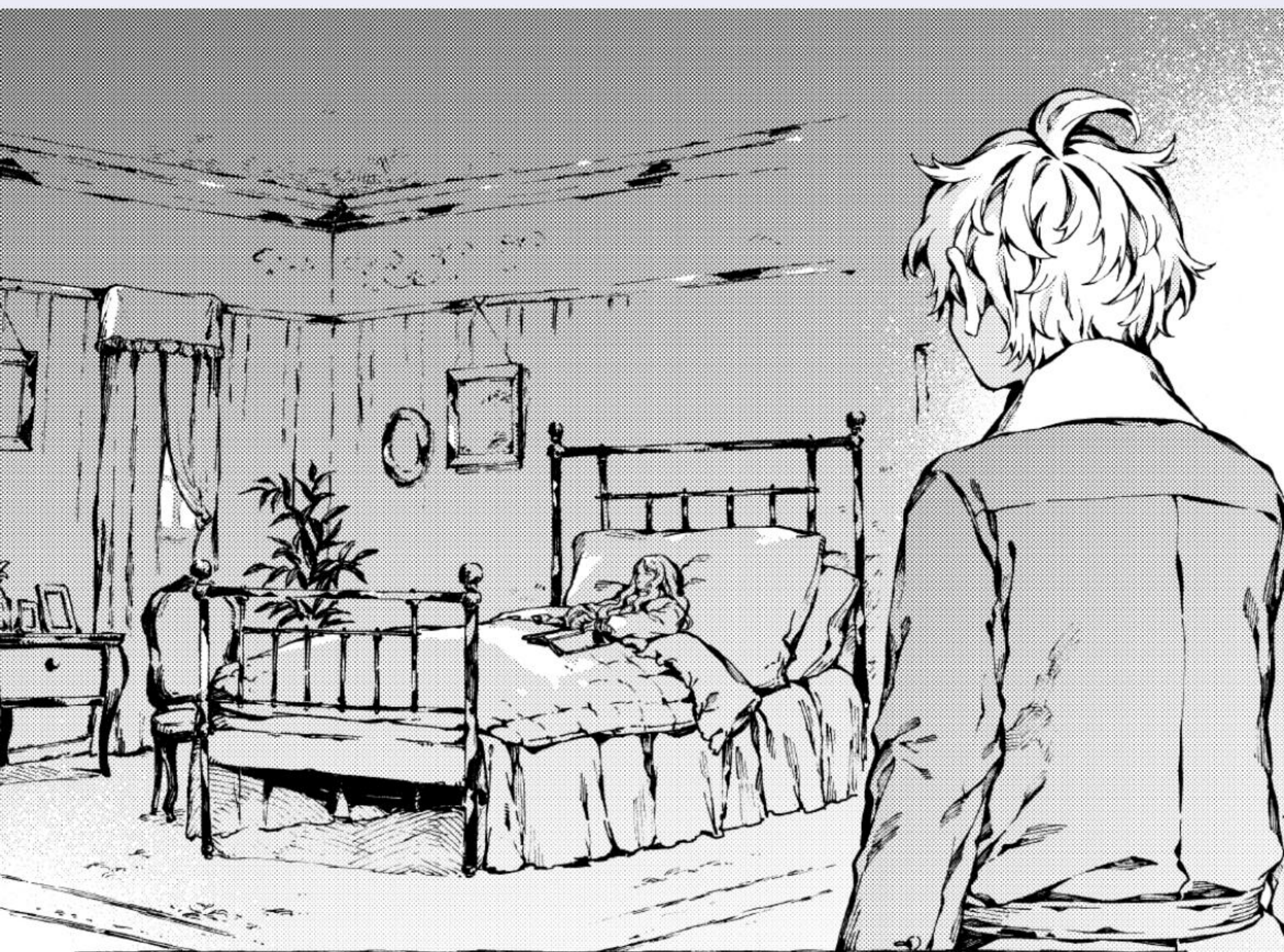
母さんの
ところへ
行きたいんだ

わかった

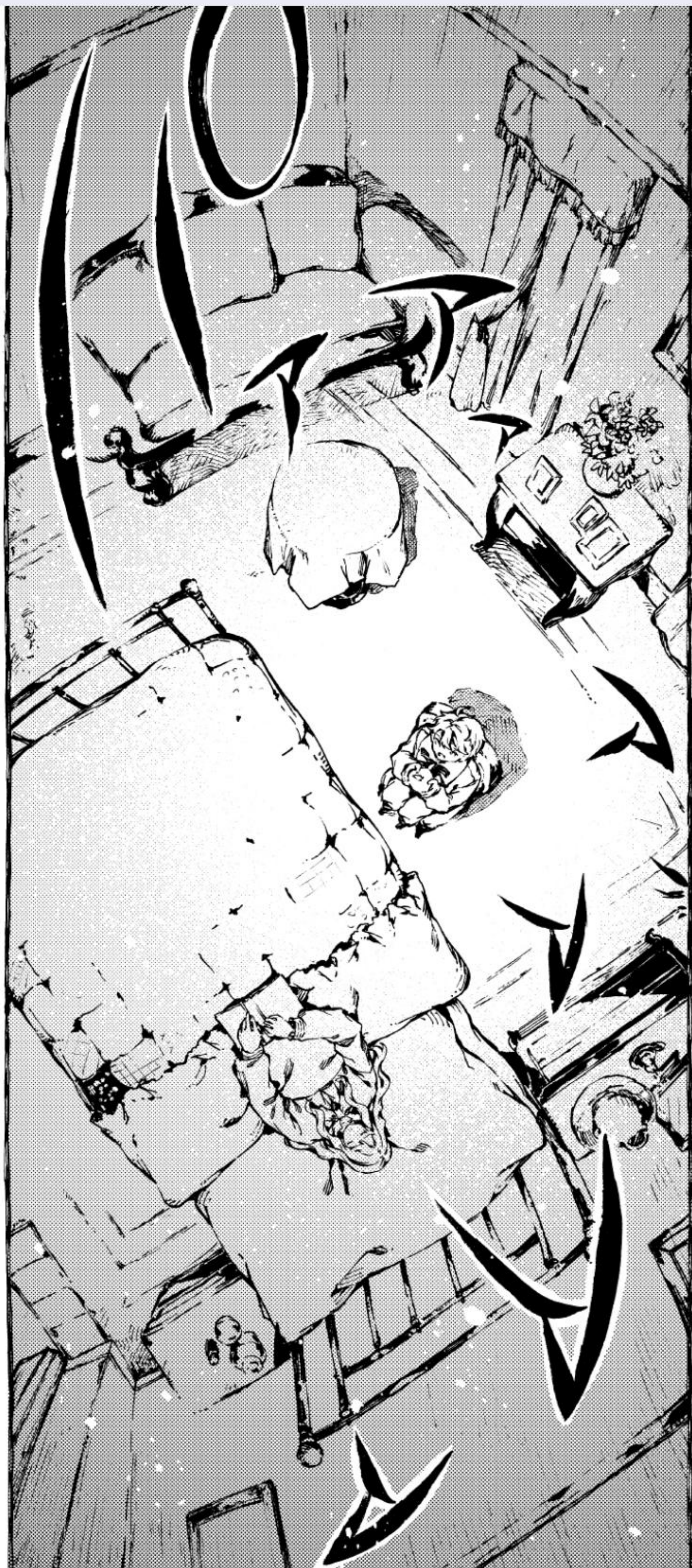




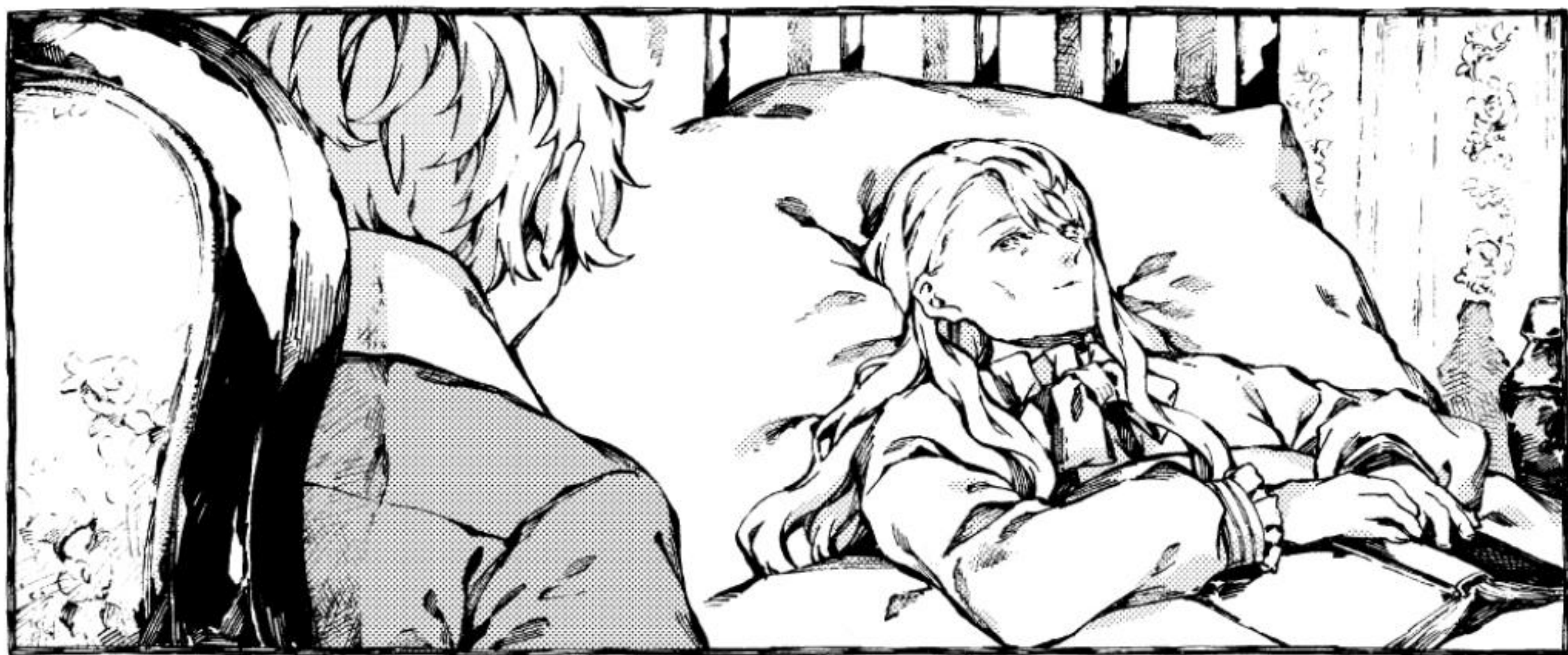












なんて
すてきな
リンゴなの

つづく